

雲仙火山における地磁気の観測*

Geomagnetic Observations at Unzen Volcano

京都大学理学部附属火山研究施設
Aso Volcanological Laboratory,
Faculty of Science, Kyoto University

地磁気全磁力変化

第1図は、普賢岳山頂部における観測点N2, N3, N4, S2, S2.5, S3, WおよびSWの地磁気全磁力変化である。観測値は、00時から3時59分までの夜間平均値を火山研究施設を基準とした単純差にして日値としたものである。

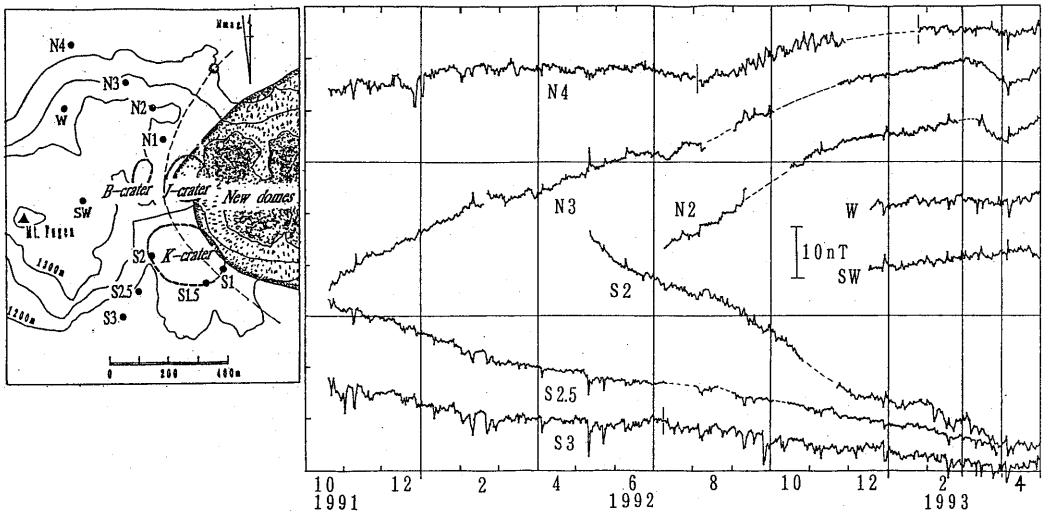
地点S2は、溶岩ドームの南西側への崩落で観測機器が破損し、欠測している。

1993年1月に第10ドーム、3月に第11ドームが出現した。

従来、ドームの南側と北側の観測地点では、ほぼ相補的な地磁気変化が観測されていたが、3月から4月までの変化は異なる。ドームの南側での地磁気の減少は、S2を除けば、緩やかになっている。ドームの北側においてのみ、4月初旬に極小を示す湾型の変化が観測されている。この振幅は地点N2やN3で約5nTに達するが、地点N4やWでは約1nT程度と小さく、局所的な変化である。

この地磁気変化の原因については、現在、検討中である。ドームの北西側のT4(N2の東約150m)が北西方向に約2m移動したことや、急速に成長した第10ドームの北西部の崩落などを考慮しなければならない。

* Received 28 June, 1993



第 1 図 雲仙岳山頂部におけるプロトン磁力計による 1991 年 10 月から 1993 年 4 月までの地磁気全磁力変化
 (基準点は、京都大学火山研究施設(阿蘇)で、夜間 00 時から 03 時 59 分までの値を平均し、単純差で日値を求めている)

Fig. 1 Geomagnetic total intensity observed at stations near Jigoku-ato crater on Unzen Volcano during the period from October 1991 to April 1993.